

## ◆ガイドラインの位置づけ

東日本地域及び西日本地域における実証事業、国内外の先進事例実態調査の成果等をもとに、ICTを利活用した教育手法である協働教育を全国に普及・啓発するためのガイドライン(手引書)を作成する。

### 【想定しているガイドライン(手引書)の活用方法】

- ・ICTを利活用した教育手法である協働教育の実施に向けて、その第一歩となる協働教育の趣旨・内容・効果等について理解する。
- ・ICTを利活用した教育手法である協働教育実施のためのICT環境構築の参考にしたり、ICTを活用する際の情報通信技術面のポイントや留意点分かる。

### 【想定しているガイドライン読者】

- ・地域レベル(都道府県、市区町村):  
教育委員会、自治体(教育関連部署、ICT利用促進部署)、教育CIO
- ・学校レベル:  
校長や教頭など学校の経営層、情報主任、  
一般教員(ICT利活用度の高低に関わらず)、ICT支援員

# ガイドライン項目(案)

はじめに (ICT機器(タブレットPC、インタラクティブ・ホワイト・ボード、無線LAN等)の簡単な機能を紹介、ICTを利活用した教育手法である協働教育について説明)

## 1 導入・運用編

- (1) 学校・教室へのICT環境の構築 (工事の内容、期間等を導入例を交えつつ、紹介)
- (2) ICT環境の構築における留意点 (校舎形状、地理的条件、セキュリティ、学校・家庭間連携等を踏まえた留意点を記載)
- (3) ICT環境の運用における留意点 (機器故障時の対応方法、ICT機器の充電忘れ等への対応などの留意点を記載)
- (4) ICT環境構築の推進体制／運用体制 (教員のICT取扱講習や教育委員会・学校・外部有識者間での協議会開催、ICT支援員の体制等も含めて記載)
- (5) 児童・保護者への対応 (児童への導入支援、これら取組についての保護者への説明等を記載)

## 2 システム編

- (1) 推奨システム (校内LAN、タブレットPC、インタラクティブ・ホワイト・ボード、協働教育プラットフォームの構築等を記載)
- (2) ICT環境の構築・運用に必要な負担・経費 (システム導入による負担・経費低減の可能性のある部分も含めて記載)

## 3 協働教育編

- (1) 協働教育推進のためのICT利活用 (教科、活用するICT機器ごとの主たる事例を紹介(利活用シーンと関連付けた記載を想定))
- (2) 協働教育プラットフォームを用いた学校と家庭との連携における活用 (ポータルサイトやICT機器持帰り等について記載)
- (3) その他

おわりに